

第24回学術集会を終えて

城西国際大学看護学部 中村博文

日本精神保健看護学会第24回学術集会・総会(大会テーマ：嗜癖を知って看護に活かすー精神保健看護とアディクション問題ー)が、平成26年6月21日(土)～22日(日)に横浜市立大学金沢八景キャンパスにて開催されました。

1日目の午前には、『嗜癖を知って看護に活かす』というテーマで松下年子大会長による大会長講演と、『アディクション問題を含めた精神保健医療における高度実践看護の実際と展望』というテーマでテキサス大学Diane Snow先生による基調講演がありました。午後には、田上美千佳先生、白井教子先生、渡辺純一先生、増子徳幸先生の4名のシンポジストを迎え、『神保健看護における先駆的实践と将来展望』というテーマでシンポジウムが行われました。午前中の講演では、アディクション問題に焦点を絞った支援・看護のあり方が、また午後のシンポジウムはそれぞれの立場からの実践と将来展望が論じられました。参加者にとって非常に興味深い内容だったと思います。天候にも恵まれ、多くの参加者を迎えることができ、学術集会事務局では嬉しい悲鳴が上がっていました。

2日目の午後には、斎藤環先生より、特別講演『現代人が抱える依存性』で、若者の依存を中心とした、現代の社会病理を大変わかりやすく講演いただきました。この特別講演は、横浜市立大学のエクステンション講座も兼ねており、多数の一般市民の参加もありました。

今回は一般演題発表として91題のエントリーがあり、24群に分かれ活発な発表・討議が行われました。また、ワークショップのエントリーも多く、2日間で計22演題のワークショップが開催されました。ランチョンセミナーは2日間で5セミナー用意させていただき、たくさんの方にご参加いただきました。

横浜での開催ということもあり、初日からたくさんの皆様にご来場いただきました。参加者数は、事前登録のみで当日いらっしやれなかった方をご招待を含むと計997名、学術集会事務局としても大変うれしく、また身の引き締まる思いでした。学術集会が大学構内で行われることは4大会ぶりのことで、今年は会場の配置、物品や人員等の不足などで参加者の皆様にご迷惑をおかけする点多々あったと思われます。この場をもちまして深くお詫び申し上げますとともに、これらの反省点は次年度の学術集会に引き継いでいきたいと思っております。最後にこの書面をお借りして、今学会運営に携わっていただいた企画委員、実行委員、ボランティアの皆様へ深くお礼申し上げます。そして国際的港街、横浜を訪れていただきました参加者の皆様、本当にありがとうございました。



横浜市立大学入口



大会長講演



一般演題

ダイアン・スノウ (Diane Snow) 先生の基調講演

横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻 松下年子

本大会の基調講演は、アメリカのテキサス大学アーリントン校教授であるダイアン・スノウ先生にお願い致しました。スノウ先生は現在、臨床教授として修士課程プログラムでナースプラクティショナー（以下、NP）を養成されています。先生は家族精神保健看護NPの資格をお持ちで、今はテキサス州デントンで、精神保健看護NPとして臨床活動もされています。精神疾患やアディクションを抱えた患者さんのケアや治療、処方等を実践されつつ、一方で、NP育成や、精神保健看護NPの役割コンピテンシーの開発、研究活動等にご尽力されている先生に、本大会テーマである「嗜癖を知って看護に活かすー精神保健看護とアディクション問題ー」を視野に入れつつ、以下のテーマでご講演いただきました：「アディクション問題を含めた精神保健医療における高度実践看護の実際と展望ー回復の促進は、依存症や重複精神疾患をもつ人へのケアを統合し、向上させることから始まるー」。ちなみに先生は、35年以上看護学教育に携わっており、1995年以降、先生がディレクターとして勤める修士課程プログラムの修了生、NPは200名以上、皆さん精神保健やアディクションケアの提供者として、地域に貢献されているということです。

さて、先生が今回のご講演の中で一貫して強調されていたのは、世界的に負荷の高い精神疾患や物質関連障害からの回復を促進するには、リスクの最小化と健康的な発達を促す視点、予防と早期介入、ケアシステムの構築が肝要であること、それらを実現するには、回復支援に向けた教育が大切であるということでした。また、物質乱用者や精神疾患を抱える女性の多くが虐待等のトラウマ経験者であることから、トラウマ・インフォームド・ケアを基盤として、エビデンスに基づいた治療やセラピーを行うことが重要であり、アディクションに対しては、SBIRT（スクリーニング、短期介入、必要時の治療機関紹介、エビデンスに基づいた治療）を原則として、まずは多職種ヘルスケアチームが当事者のメンタルヘルスケアへのアクセスを改善し、スティグマを軽減し、当事者のエンゲージメントを高めること、支援者のコアコンピテンシーを開発すること、職種を超えた包括的ケアと教育が必要ということでした。最後に、米国の精神保健看護NPの概要と、精神保健看護NP特有のコンピテンシーとその教育について、ご紹介いただきました。

ご講演をうかがって、米国の精神保健医療にあって先生が、一貫したポリシーをもって臨床と看護学教育の連携、高度実践看護の探求と開発を遂行されてきたことに感銘いたしました。そこには、精神疾患やアディクションを抱えた当事者に対する、深いケアのところがあつたのではないかと拝察します。参加された皆様も、先生のご講演に熱心に耳を傾けていらっしゃいました。



シンポジウム

精神保健看護における先駆的实践と将来展望

理事 萱間 真美

紫陽花の花が美しい金沢八景で、今年は学会一日目午後にシンポジウムが行われました。精神保健看護学会において「先駆的实践」とは何か、これは今後の学会の目指す方向性を考えるためのテーマでもあったと思います。

増子徳幸さんは、ACTプログラムを提供する訪問看護ステーションの管理者としての立場から、1事例へのサービスの展開を具体的に紹介し、迷ったことや、地域の資源との連携の困難さといかに向き合ったか、どのように行動したかを率直に語りかけて下さいました。学部を卒業後、精神科病院を経て地域ケアの場で活躍される看護職として、この時代の課題をしっかりと受け止め、将来を見据えていらっしゃることに心強さを感じました。

渡辺純一さんは、精神科病院の専門看護師として働く立場から、病棟のニーズをどのように受け止め、専門看護師としての支援や教育のシステムを病院と共同してどのように構築したかをご紹介くださいました。無理をせず、時には待つことも大切にしながら病院全体の看護の質の向上をたゆまず志向し、積み重ねていく活動のご様子は、修士課程終了後専門看護師の役割開発を目指す人たちのモデルとなったと思います。

白井教子さんは、修士課程終了後、大学病院でリエゾン精神看護の実践を開始され、病院全体のリソースナース（専門看護師、認定看護師）の組織化と活用システムにも関わったプロセスをご紹介くださいました。現在は博士課程でシステムの発展の全体像を俯瞰し、さらに地域と大学病院との連携を視野に入れていらっしゃいます。専門看護師としての個別の働きを通じてシステムを構築し、病院全体の機能や地域との連携への視野の広がり、経験を積んだ専門看護師のモデルとなると思いました。

田上美千佳さんは、研究・教育に関わってこられた立場から、本学会における看護実践と上級実践のとらえ方の視点を、共に並走的に発展を目指すパートナーの立場であり、どちらかが上位にあるものではないと位置づけておられました。グローバル化や地域ケアの発展に向かう現在の流れの中で、学会は様々な年代や経験のレベルにある方たちが協働して知識を高めていく場であることを、開催中のサッカーワールドカップの写真を交えて整理してくださいました。研究・教育の機能が、実践の概念整理や課題の明確化にどのように寄与しうるかを示して下さいました。

精神科看護の発展は、多様な場で、多様な背景を持つ看護職によって担われています。学会はこのような多様性に対応しうる場であることと同時に、それぞれの問題意識を深化させ、新たな発想のヒントを得られる場であることも求められます。このシンポジウムは、様々なステージにある人たちを励まし、これからも共に努力を続けようというメッセージを伝えられたと思います。

この場を作るために、本学会の運営に奔走された学会長はじめスタッフの皆様、感謝申し上げます。



第24回学術集会に参加して

医療法人須藤会土佐病院 下原 貴広

本学会には、はじめて、ワークショップ「ヘルピングスキルを学ぼう」のメンバーとして参加しました。私自身、以前は面接技法などあまり考えず、自分のそれまでの経験からの感覚で患者さんと会話していました。大学院でヘルピングスキルを学ぶ機会があり、自分自身の面接を振り返ることができ、自分の患者さんへのかかわり方により影響を与えてくれました。

そのヘルピングスキルについて、ワークショップを企画した大学院の先輩に誘われ、本学会ではワークショップのメンバーという形で他の人に伝える側になりました。ヘルピングスキルを学んだ時に感じた、「あ、そういうことかぁ……」という自分の中に理解が落ちてくるような感覚が参加された皆様にも起きたら良いなと思いワークショップに参加しました。

内容は、ヘルピングスキルの概略の説明後、ワークショップのメンバーで面接者役、患者役を決め、実際に面接を行い、録画した映像を見ながら振り返り、場面場面でのどのような面接技法を行われていたのかを確認しながら、面接者の意図やその時の患者の思いも併せて参加者に伝えました。このような方法で実際に面接の練習を行うことで、面接者自身、自分の傾向を知ることでもでき、面接技法の良いトレーニングになることも、私自身あらためて実感できたのですが、参加者の方に少しでも伝わったと思っています。

学会にはこういう学びのチャンスがあることを身をもって感じる学会になりました。今回学んだこと、臨床の現場にも持ち帰りたいと考えております。

第24回学術集会に参加して

医療法人碧水会 長谷川病院看護部 五味 麻里

昨年度の学術集会は事情により参加できなかったため、1年ぶりに学術集会に参加することができました。これまでの学術集会では、修士論文で取り組んだ研究の発表や一般参加という形で参加してきました。今年度は、ワークショップを他施設のCNSと協働して開催する機会をいただきました。そのため、初めての経験も加わり多少の緊張感も持ちながらの学会参加でもありました。

そのような中で、「精神保健看護における先駆的实践と将来展望」をテーマにしたシンポジウムは興味深く印象に残っています。地域での実践、施設でスタッフと協働するCNSの実践、経験豊富でダイナミックな活動をされているCNSの実践、そして教育的な立場からみた精神科看護ケアの実態、それぞれのお立場で先駆的实践をどのように考え、具体的にどのような活動を行っているのかを伺うことができました。特に、田上先生のお話の中で、通常ケアと先駆的实践の関係性が示される中で、自分の頭の中でもケア構造が整理されクリアになる感覚を得ることができました。先駆的实践を支える通常ケアという関係性ではなく、両者は相互に関連し合い連動しながら発展していくことでケアの質が向上していくという視点は、日々のCNSとしての活動を振り返る機会にもなりました。

日々、患者やご家族に還元できるものを……と考えながらも、自分の実践が行き過ぎなものとなっていないか懸念することもあります。しかし、行っていることが1人歩きせず周囲との協働や調整を推し量りながらすすめられるためにも、それがなぜ必要なのか自分自身が周囲に説明していける力やコミュニケーション力をさらに高めていかなければいけないと感じました。

ワークショップでは緊張してしまいましたが、周囲の強力なサポートもあり皆で作り上げることができた経験や講演を聴きエンパワメントされたことで明日からのエネルギーをもらうことができました。これからも日々励んでいきたいと思っております。

理事会・評議員会・総会報告

平成26年6月20日、横浜市立大学金沢八景キャンパスにおいて、平成25年度第5回理事会、および第6回評議員会、続く6月21日には、日本精神保健看護学会第24回総会を開催致しました。第23回総会において、本学会が一般社団法人となることが議決され、この1年は、理事会を中心に、その準備をすすめて参りました。評議員会および総会では、平成25年度事業報告・収支決算とともに、定款案および関連規則案が承認されました。平成27年4月の一般社団法人への移行にむけて、引きつづき、準備をすすめて参りますので、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお総会では、以下の議案が承認されました。詳細は、日本精神保健看護学会誌に掲載予定となっておりますので、ご参照ください。

1. 平成25年度事業報告および収支決算報告

学会誌において、研究成果を報告いただく予定です。

2. 平成26年度事業計画

平成26年度も引きつづき、学術集会の開催、学会誌およびニュースレターの発行、ホームページの運営、学術連携に関する活動、研修会やワークショップの企画、災害支援に関する活動、研究助成事業など、例年の事業内容を充実発展させていくことを予定しています。

1) 研究代表者：榎本真次氏（和歌山県立医科大学附属病院） 亜急性期における治療抵抗性統合失調症患者に対する心理教育とコンコórdانس・スキルの効果（250,000円）

2) 研究代表者：吾妻陽子氏（福島県立医科大学附属病院） 精神科看護職に対するアサーション・トレーニングの効果－地域移行に向けての看護実践への影響に焦点を当てて（150,000円）

3) 研究代表者：緑川綾氏（慶應義塾大学看護医療学部） 精神科リワークデイケアにおけるデイケア活動のプロセス（200,000円）

3. 平成25年度予算

4. 一般社団法人日本精神保健看護学会定款

5. 一般社団法人日本精神保健看護学会代議員・役員選挙

また研究助成事業では、審査の結果、3件の研究が採択されました。今後、学術集会や

総務担当

学術連携委員会からのお知らせ

精神科リエゾンチーム講習会・倫理ワークショップの ご報告と御知らせ

学術連携委員長 宇佐美 しおり

大変暑い日々が続く一方、台風が毎週押し寄せ、多くの被害をもたらしております。台風11号、12号の被害にあわれた皆様には心よりお見舞い申し上げます。1日も早い復興を願っております。

6月の総会后、学術連携委員会では7月19日に東京一橋講堂で精神科リエゾンチーム講習会基礎編を開催させて頂きました。この講習会は日本総合病院精神医学会との合同開催で、7月19日は、日本総合病院精神医学会が担当でした。多くの皆様にご参加頂き、精神科リエゾンチーム運用の基礎について講義、事例検討が行われました。来年1月24日（東京、一橋講堂）には精神科リエゾンチーム講習会スキルアップ編を準備しており、1月は本学会の担当となっております。すでに精神科リエゾンチームを運営されている方々を対象とし、困った事例、困ったチームについて検討を進めていく予定にしております。10月頃に広報を開始いたしますので、どうかご参加頂ければと思います。

また学術連携委員会では、6月の学会時および8月2日に（九州地区：熊本大学で実施）、精神科看護における倫理的問題と対処に関する講習会—臨床倫理コンサルテーション—を開催しました。どちらとも40名を締め切りとさせて頂いておりましたが、臨床・教育現場でご活躍の皆様にご参加頂き、すぐに満員となりました。意思決定能力が不十分で精神状態が不安定なため家族や医療者が今後の方針や居住先を決定してしまっていた事例、精神状態がいつも悪く今後の方向性について意思決定を促すタイミングがない事例、について事例検討を行った後、倫理コンサルテーションを展開し、相談者がより焦点を定めて倫理的問題に取り組めるよう支援を行う過程をロールプレイを通して検討しました。

大変暑い中ではありましたが、参加者の皆様には積極的にご発言頂き、倫理的問題への関心の高さを知ることができました。また8月29日には大阪（大阪市立総合生涯学習センター）で、10月18日土曜日には東北地区（秋田大学）でこの講習会を開催予定です。多くの皆様にもご参加頂ければと思います。

さらに、委員会では、精神科看護におけるケアガイドライン作成を試みております。身体疾患を有する人々で精神状態が不安定な方々への精神科看護師としての精神的支援、高齢者でうつ状態および認知症を有する方々への精神科看護師としての支援方法について作成を行う予定です。

皆様にも委員会活動に、多くのご協力を頂きますが、どうかよろしく御願いたします。

教育活動委員会からのお知らせ

日本精神保健看護学会 教育活動委員会主催 研修会（9月～12月）のお知らせ

◆テーマ：看護研究における現象学的アプローチ 事始め

講師：西村ユミ先生（首都大学東京大学院人間健康科学研究科教授）

家高洋先生（大阪大学大学院文学研究科非常勤講師）

日時：2014年9月23日（火・祝） 13：30～16：30

場所：日本赤十字看護大学 201教室

参加無料

申し込み締切り：9月17日（水）

◆テーマ：マインドフルネスを学ぶ

講師：井上ウィマラ先生（高野山大学）

日時：11月3日（月・祝） 14：15～17：15

場所：滋賀医科大学 第4講義室

定員：30～40名

内容：マインドフルネスについての講義と呼吸法の演習を行います。

参加無料

申し込み締切り：10月22日（水）ただし、定員に達したところで、締切とします。

◆テーマ：東日本大震災における精神科看護師たちの体験

日時：12月6日（土） 13：30～16：00

場所：東京女子医科大学

話題提供者：高橋葉子、田中美恵子ほか、災害支援特別委員会委員

申し込み締切り：11月19日（水）

◎いずれも、申し込みはメールにて、①氏名、②所属、③職業、④参加人数を明記してお申し込みください。アドレスは mhnkensyu@gmail.com

定款が議決されました

理事長 野末聖香

学会員の皆様には、いつも学会活動への積極的なご参加、ありがとうございます。

さて、平成26年度学会総会で、本学会が平成27年4月に一般社団法人化することが議決されました。その後定款案や選挙関連規定案の作成など法人化の準備を進め、今年3月8日に臨時評議員会、5月17日に学会員の皆様を対象とした説明会を開催し議論を深めました。そして、議論に基づき作成した定款案が6月の学会総会で議決されました。また、定款に則り作成した選挙関連規定案についても賛成をいただきました。定款等の作成にあたっては基本的に現在の会則をベースにし、会則には明記されていないが実際に実施している活動等について追加して、法人法に則り作成いたしました。一連のプロセスにおいて専門家である中野千恵子司法書士から助言を得ました。

今後は、平成27年4月の法人設立に向け、さらに準備を進めて参ります。平成27年1月には評議員（法人化後の代議員）・役員選出のための選挙があります。法人化に伴いこれまでの学会運営と大きく変わる点は、代議員制をとるという点です。平成27年4月の法人設立後から6月までは現評議員・役員の任期ですので、法人化後第Ⅰ期の代議員・役員は現在の者がこの役に当たり、平成27年7月からの第Ⅱ期代議員・役員は、次の選挙で選出された者が当たることとなります。したがって、会員の皆様におかれましては、平成27年1月の代議員選挙の重みを十分にご認識いただき、代議員を選出していただきますよう、ご協力のほど、何卒よろしく願い申し上げます。

第25回日本精神保健看護学会学術集会のご案内

第25回日本精神保健看護学会学術集会を茨城県つくば市で開催いたします。日本精神保健看護学会は設立され25年を迎えることとなります。また、一般社団法人となって初めての学術集会となり、日本精神保健看護学会の益々の発展が期待されています。さらに、精神医療のめざましい進歩を受け、エビデンスのある看護への改革が求められているように感じます。そこで、今回の学術集会のテーマを「**新たな精神保健看護の開発を求めて**」といたしました。これまでの援助のあり方を振り返り、さらに発展させるためのきっかけに本学術集会がなることを期待しております。そのため、対象者の持っている力を活用し、その人らしく生きることを支えるために新たな取り組みをしている看護実践の紹介、的確なアセスメントをするための対象者理解の方法などについてシンポジウムや講演で、明日からの看護に活かせるようなワクワクするような企画を考えております。また、法人化記念として学会理事会主催の講演も予定しております。

学術集会は、**2015年6月27日（土）、28日（日）** つくば国際会議場で行います。会場は、秋葉原駅から、つくばエクスプレス（快速）で45分、徒歩7分ほどのところ です。

多くの会員の皆様が発表できるように、日本精神保健看護学会としては初めての企画であるポスターセッションも行います。

一般演題の募集は **2014年10月1日～2015年1月23日**を予定しております。

ワークショップは **2014年11月1日～**を予定しております。ワークショップは会場の都合で規定数に達した場合、募集を打ち切る事もあります。

詳細はホームページ (<http://japmhn25.umin.jp/>) をご参照下さい。

なお、一般演題の発表者及び共同研究者、ワークショップの企画代表者及び企画者は、全て登録時に会員（入会申し込み中を含む）であることが必要となります。

会員の皆様の研究成果の発表ならびにご参加をこころよりお待ちしております。

大会長 森 千 鶴
(筑波大学)

ニュースレター原稿募集

学会では、学会員の主催する精神看護関連の活動を支援し、また、より広く交流を図れるよう、ニュースレターに掲載する原稿を広く募集しております。

皆様が主催される様々な精神看護関連の活動について、ニュースレターでの広報をご希望の際には、その活動内容、主催者（お名前とご所属）、開催場所・日時、参加方法、連絡先に関する原稿をお寄せください。

また、現在の精神保健医療や看護に関するご意見や問題提起、あるいは学会員の方々と共有したい情報などもお寄せいただければ幸いです。広報委員会で検討させていただきます。皆様からのお原稿をお待ちしております。

The Japan Academy of
Psychiatric and
Mental Health Nursing
*News
letter*

編集後記

▼猛暑、相次ぐ台風、大雨などのため、たくさんの方々が被害を受けたとお聞きしております。被害にあわれた方々には心よりお見舞いを申し上げます。ニュースレター第71号は、例年通り第24回学術集会の報告を中心に作成しました。横浜大会は参加者1,000名あまりとたくさんの方々にご参加いただきました。同時に行われた総会では、法人化に向けて定款が議決されております。また、今後も学会の発展に向けたさまざまな取り組みが予定されております。このニュースレターで、学会の歩みが少しでもみなさまにお伝えできればと考えております。

編集委員：畦地博子・田井雅子・畠山卓也・榎本 香

広報委員会 ホームページ担当：萱間 真美 ニュースレター担当：畦地 博子
(お問い合わせ先) メールアドレス：azechi@cc.u-kochi.ac.jp
TEL/FAX：088-847-8717